

Title	沼津版 経済説略
Sub Title	
Author	三邊, 清一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1942
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.36, No.7 (1942. 7) ,p.602(68)- 613(79)
JaLC DOI	10.14991/001.19420701-0068
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19420701-0068

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

沼津版『經濟說略』

三邊清一郎

沼津版『經濟說略』(明治二年)を稽へる。それは六十七頁の片々たる小冊子だが、英語が書かれた經濟書のため、國で刊行された最初のものとして注目されてゐる。また「標題紙から」

THE COMPENDIUM OF POLITICAL ECONOMY; FROM THE LESSON BOOK. — / EDITED
/ BY / WATANABE & CO. / AT NUMADS. / MERGE 2ND.

標題紙の反對側すなはち見返しには

「明治二年巳年刷行 經濟說略 駿府 無盡藏版」
とある。

標題紙の Watanabe & Co. は渡部一郎である。これは、小幡篤次郎先生が『生産道案内』で、「此書(『生産道案内』)は友人渡部一郎が翻刻せる經濟說略といふ英國開板の原書を譯するものにて」書いて居られるから確かである。幼名銚太郎、後には温、無盡藏はその號である。知新外史とも稱した。また「渡部 & Co.」といつたにも譯

がある。これより先洋書調所の諸學者等が『日本新聞外編』『中外新聞』を出したとき、その同人を『會譯社』と言つた。これに倣つて、彼は單獨で『中外新聞外編』を出した時にも、恐らくコンパニといふ言葉の誤用であらうが、「無盡藏會社」と稱した(『幕末明治新聞全集』第一巻尾佐竹猛「解題」二〇頁)。「明治文化全集」第十七巻、小野秀雄「我邦初期の新聞と其文献について」六一—七頁。同書、三二八、三二七頁。その & Co. である。彼は Watanabe & Co. のほかに慶應三年の『英吉利會話』 Conversations of English language, for those, who begin to learn the English, by R. von der Pyl. Edited by Watanabe & Co. Yedo, at the third year of Keiou 明治三年の『西洋蒙求』 A book of lessons for the use of schools, published by permission of the School Kaiseijo. Second edition Numaz. Hiro W. N. & Co. Meiji 4th. を出版してゐる(『荒木伊兵衛』日本英語學書志』昭和六年、一八八—二二二頁)。彼は初め蘭學を修め、後英學に轉じ、文久二年蕃書調所の英學句讀教授となり、明治二年沼津兵學校が開設せられたとき、一等教授並として迎へられ英語を擔當した。そして沼津兵學校移管後も教育界に在り、舊東京外國語學校の校長にもなつたが(註)、後更に實業界に轉身して産を成した(『明治文化全集』第十四巻、翻譯文藝篇、松崎實「通俗伊蘇普物語解題」、六一—九頁。大野虎雄「沼津兵學校と其人材」、昭和十四年、六八—六九頁)。「日本教育史料」七、明治三十七年、再版、六六—六七頁)。

(註) 本校は明治六年に開設せられ、同十八年東京高等商業學校に合併せられて廢絶した(黒田茂次郎、工館長「明治學制沿革史」明治三十五年、六九—九八頁)。

沼津兵學校は、明治維新の際駿河に移封された徳川氏が舊臣授産の便宜——舊臣の子弟を選んで軍職に養成して生活の資を得させる——として、また幕末に自ら移入した西洋文明活用の一方法として、明治元年十二月沼津に

開設した士官養成の學校である(大野虎雄『沼津兵學校と其人材』七十八頁)。そこでは生徒を資養生と本業生の二に分ち、資養生には外國語學として英佛語のうち一科を課し、その最終の課程で「萬國史、經濟說大略」を修めることになつてゐた(同書一四〇頁)。米山梅吉幕末西洋文化とは沼津兵學校『昭和十年附録一、一〇頁。恐らくそのために『經濟說略』は教科書として用ゐられたのであらう。編纂者がこの學校の英語擔當の教授並であつた事實がこれを推測させるのである。本校の『提要』に據れば、それは我國語學の一科として授けられたのであつた、けれどもそれによつて黎明期の日本の若い青年達が『經濟說大略』を読み取つたことは疑ひない。では彼等はどうな經濟論を教へられたのであらうか。本書の目次は次ぎのものを擧げてゐる。すなはち

- 第一一二課 價值に就いて
- 第三課 貨銀に就いて
- 第四課 貧 富
- 第五課 資本に就いて
- 第六一八課 租税に就いて
- 第九一十一課 貸 借
- 第十一課 分業……スミス

原著者は價值論では、勞働費用説よりも寧ろ需要供給説を採つてゐる。「價值あるものは、すべて有用であるためか、美麗なためか、或はなん等かの満足を與へるために所望せられるだけでなく、また稀少であるに相違ない、すなはち供給に制限があり、何物かを與へなければ得られない。だから所望せられる有ゆる物のうちで、供給に最も

制限あるもの、すなはち獲得最も困難なるものが最も價值が高い。」(p. 4)しかし物に價值を與へるのは勞働だと考へるのは誤りである。「物が高く賣れるのは、それに勞働が費されたからではない。反對に物が高價に賣れるからその獲得に勞働が投ぜられるのである。」(p. 7)貨銀は實施された仕事の價值によるのである。そして各種の仕事の價值も「その供給制限——すなはちその獲得の困難に準じて高下する。」(p. 9)。生産的に使用せられた貨幣は追加を伴つて歸つて来る。「この追加が利潤であつて、かやうにして投ぜられた貨幣が資本である。」(p. 29)資本には流動、固定の區別がある(p. 33)。「商業及び製造業に投ぜられる資本の大部分は自らその所有者でない人々(企業家)によつて使用せられる。」(p. 31)

「貸借」の課に於ける著者の説明は特色がある。こゝでは *partial value* のそれに似た見解が述べられてゐる。「ひとがその所有物を他人に全く手離して、これに對して支拂を受取るときには、この取引は知られるやうに、賣買と呼ばれる。そのひとがこれを一時だけ他人に手離す、すなはち貸すときは、この取引は通常貸借と稱せられる。」けれどもこの種の取引を表はすに用ひられる言葉は様々である。ひとが一定の價格で私にその車、舟、または馬の使用を許すならば、この價格はハイヤと呼ばれる。同様にまたひとが私の用を達しましたは私に仕事をして呉れるためにその身體を貸す、すなはちその勞働を貸すならば、私はそのひとをハイヤすると呼ばれる、その受取る支拂は、もつと普通には貨銀といふのだが、ハイヤとも呼ばれることもある。しかし彼れが私に、車や馬の代りに、家もしくは畑を貸すならば、私が彼れに支拂ふ價格はレントといはれる。またひとが私にその貨幣の使用を許すならば、その貸金に對して支拂ふ價格は利子と名付ける。借てかやうにこれ等様々な言葉が用ゐられるけれども、それは同じく様々な種類の取引を指すものと考へてはならない。レント、ハイヤ、利子の言葉の意味をよく考へるならば、そ

れ等はまた事實同種の支拂を意味することがわかるだらう。借用品の品種が異なるに従つてこれ等様々の言葉が用ゐられるのは、用語上の形式に過ぎない。(p. 49-50)。

そこで地代であるが、地代もまた需要供給によつて決せられる。「土地は人数に比較して稀少となる、すなはち人間が増加するに従つて、その所有者は愈々高い地代を取得しうることを知つてゐる。これはさきにも説明したやうに、有用なるものが數量を制限せられるときに價値ある物となる、すなはち價格を齎らすからである。」(pp. 55-56)。「地代は土地の所有者(すなはち地主と稱せられる者)が土地の圍繞、施肥、耕作に投ずる費用を理由として支拂はれるものだ」と考へるのは間違ひである(p. 55)。地代は生産費を構成しない。地代は剩餘である。穀物その他の食糧品の價格の高いのは地代が高いためだと考へるのは全く誤つてゐる。「土地地代の高くないのが穀物の高い價格の原因ではない。反對に土地地代の高いのは、穀物その他土地産物の價格が高い結果である。」(p. 59)。

かういつたのが原著者の紹介する經濟理論である。そしてこれ等理論の底を貫いて流れるものは言ふべきでもなく正統派流の自由思想である。原著者は「見えざる手」を信ずる。「かやうに人々が、私利のほか何ものをも考へないまゝに、神の恵み深い叡慮により世のために盡すところ最大であるのは、全く思議の及ぶところでない」(p. 37)。「財産が安全であり、何人も自分のものを所有することが出来、正しい手段で何でもを獲得し得、維持し得、また他人を害しなければ、思ふまゝに消費し得る状態が、富者、貧者、中産者、總ての階級に最も宜しい。」(p. 21)。例へば「當人は恐らく國を富ます考へなく、たゞ己れの富を冀ふだけであるかも知れない。しかしこれが個人が祖國を富ますために取り得る最善の確實な方法である。」(p. 29)。三百年の封建思想の影響の下に育つた幕臣の子弟等は、これ等の章句に接して密かに殆んど夜の明ける想ひを懐いたに違ひない。(註)これに先だつこと數年慶應義塾

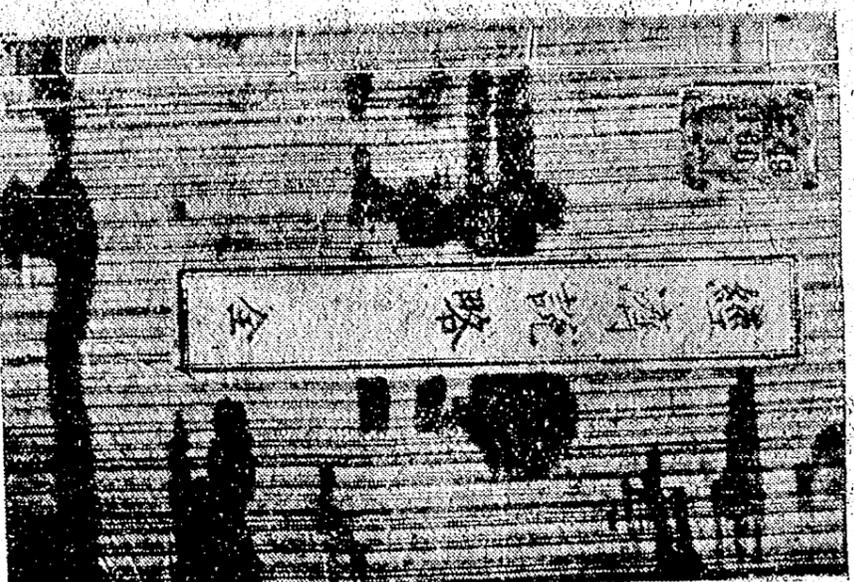
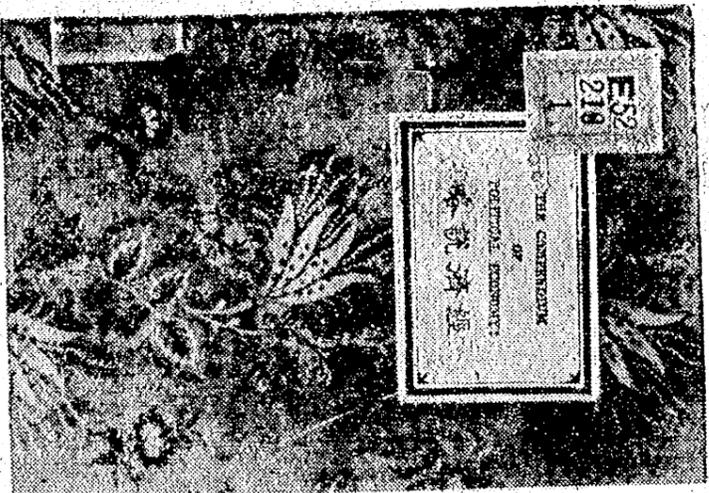
に學んだ若き學徒は、初めてウェーランドの『經濟學要論』を繕いて「毎章毎句、耳目に新たならざるものなく、絶妙の文法、新奇の議論、心魂を驚破して食を忘れたのであつた(石河聲明、『福澤諭吉傳』第二卷、二七五頁。高橋誠一郎教授「日本に於ける經濟學の發達」國民學術協會編『學術の日本』昭和十七年所收、二五五頁)。吾々は彼等の中に第六期資業生として後年の自由主義經濟學者田口卯吉の名を見出すのである(米山梅吉『幕末西洋文化と沼津兵學校』一〇八頁。大野虎雄『沼津兵學校と其人材』八三頁)。

(註)本校は開校以來僅か三年餘で廢校となり、本業生は一人も出さなかつたが修業生の一部を修業生せしめた(大野虎雄氏前掲書、一四頁)。

では編者渡部一郎はこれ等の文章をなから取つたのであらうか。かれは本冊子の最後に「分業」に關する一課を加へて居る。これがアダム・スミス『國富論』から引いたものであることは、目次の明かに示すところである。それはキヤオン版に據れば第一卷、一三二―一四頁である。そしてその底本にて用ゐられたのは、恐らく現在葵文庫に收められてゐるマカラック編『國富論』の一八六三年の新版 *An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations, by Adam Smith. With a life of the author, an introductory discourse, notes, and supplemental dissertations.* by J. R. McCulloch. esq. New ed. revised, corrected, and improved. Edinburgh, 1865. である(静岡縣立葵文庫『貴重書目録』一〇七頁)(註)。同書には開成所の朱印を抹消してその上に「静岡學校」の印を押し、江戸から静岡に持ち來された嘗ての同校の舊藏であることが明かなのだから(静岡縣立葵文庫長加藤忠雄氏より筆者への書簡。「静岡縣立葵文庫」一覽『昭和五年二頁』)。しかしその他の部分に就いてはわからない。小幡先生は「英國開板の原書」と言つて居られる(『生産道案内』凡例)。けれどもそのほかのことがわからない。葵文庫には前記マカラック版『國富論』のほ

か、經濟書としてはウェーランドの『經濟學要論』The elements of political economy. By Francis Wayland, D. D. 40th thousand. Boston. 1870. 及びシーニョアの『經濟學』Political economy. By Nassau William Senior, M. A. 5ed. London, 1863. がある。けれどもウェーランドではなく、シーニョアでなくとも、本文を照合すればわかる。また慶應三年神田孝平が『經濟小學』を譯したのは、エリスの『社會經濟概要』Outlines of social economy, by William Ellis. の蘭譯を獲て、『頃日遇其最モ簡單ナルヲ得テ喜ヒ堪ヘス、乃チ淺陋ヲ顧シムシテ之ヲ譯』したのである。當時の洋學の状態から稽して、底本となつたものは流行の通俗書と考へられるのであるが、チェンバース(Chambers's educational course. Political economy, for use in schools, and for private instruction.) ではなく、ウェーランドの『要略』(Francis Wayland: Elements of political economy. Abridged and adapted to the use of schools and academies, by the author.) ではなく、エリスではなく、ロジャースの『經濟學提要』(James E. Thorold Rogers: A manual of political economy for schools and colleges.) である。またメルチノの『經濟學物語』(Illustrations of political economy 1832-34.) ヲノマトの『經濟學問答』(Conversations on political economy; in which the elements of that science are familiarly explained 1816. では勿論なし。「兵學校時代の書籍及び審書調所の印あるもの今尙存せり」といふ沼津文庫の整理が完成したら、或は明かにせられるところがあるのかも知れない(沼津市郷土研究會編纂『沼津市誌』昭和十二年、二六一頁)。只今のところ同文庫に兵學校時代の蘭書の蔵することはわかつてゐるが、英書に就いては知られてない(大野虎雄氏談)。

(註) このマカラック版『國富論』は静岡縣立葵文庫『貴重書目録』(一〇七頁)には一八六五年刊としてある。けれどもそれは一八六三年の間違であるといふことである(同文庫長加藤忠雄氏書簡)。序だがマカラック版には一八六五年發行のものは



沼津版『經濟說略』

ない筈である。

本書には前記のやうに「駿府 無盡藏版」なることを明示するものと、この見返しを缺く異版とがある。前者は石州半紙様の紙に印刷され、一丁を二頁に折るために版心に短い黒線で見當が附してある。和綴りである。これに反して異版は森下やうの厚手の紙の両面に印刷し、表紙には洋風の花模様ある布が用ゐてある。洋装である(中村直次郎『聚玉紙集』昭和八年参照)。また和装本は 7cm X 18cm の大きさであり、洋装本の方はそれよりも小さく 5cm X 15cm であつて、「鉛製活字にて鳥の子紙兩面摺、洋装なり……小さき本にして紙數も僅か八十ページ許なるものなりしかば人渾名して『木の葉文典』など」と稱したといふ『英吉利文典』(文久三年刊)を想はせるものがある。(豊田實『日本英學史の研究』昭和十四年二一八―二二頁。大槻文彦『和蘭字典文典の譯述起源』『史學雜誌』第九編第六號八頁。)本文の印刷は使用活字とも、兩者全く同じ。唯、三十六頁下より三行目に *to be more saving* なる句があり、小形本では *more* が *both* と誤植され、和装本では。が張紙して訂正されてゐる。兩者のうちいづれの出版が夙く、いづれが沼津兵學校の生徒によつて教科書として讀まれたのか、今となつては知る由もない。誤植の點から、また體裁から後者の出版が夙く、それが兵學校の教場で讀まれたのではないかと私は推測する。そして邦語を以つて出版者を明かにする和装本の方は一般發賣のものでなからうか。この方が今日でも比較的流布が多いやうである。慶應義塾圖書館に藏する小形本には「梅雪齋藏」なる藏書印がある。この梅雪齋その人の經歷が知られるならば、或はその邊の消息が明かにせられるのかも知れない。

いづれにしてもこの歐文印刷が果してこの地で行はれたかどうかには、少し穿鑿の餘地がある。米山梅吉氏は「横濱には早くより英人ハンサード及びブラックの組合により外字新聞雜誌が發行され、活版印刷を業とされ

たことであつたから、此書の如きは横濱にて印刷されたるものなるやも知れず」と言つて居られる(米山梅吉『幕末西洋文化と沼津兵學校』一三七頁)。また同地の研究家大野虎雄氏もその用紙から推してこの印刷は沼津で行はれたのであるまいと推測して居られる。すなはちその所持せられる『沼津兵學校提書』が薄手の沼津半紙に木版で印刷されてゐる。沼津半紙にされてないこの活字印刷は、沼津のものでなく、横濱かもしくは東京のものであらうといふのである。そこで思ひ出されるのは江戸開成所の歐文印刷である。これより先嘉永三年和蘭政府はスタンポーフ式手引印刷機一臺に歐文活字大小百餘種、その他附屬品一式を取揃へて時の將軍家慶公に献上した。これが後に開成所に下渡されて『書史』第一冊 荒木伊兵衛「安政年間に刊行されたる長崎活字本に就いて」八頁。同氏『日本英學書誌』、二二九頁)、こゝでこれを用ゐて文久元年 *Familiar method for those who begin to learn the English language* を手初めに、文久二年堀達之助編『英和對譯袖珍辭書』、同年『英吉利文典』(木の葉文典)が刊行され、江戸に於ける洋式印刷の嚆矢をなした(同書、一六二、一六五、一七一頁)。慶應二年の『英吉利單語篇』、『英語訓蒙初篇』も恐らく同じ活字を用ゐたのであらう(同書、一七七、一七九頁)。だから曾て同所の英語教職にあつた編者がこの活字を使用する便宜を有し、それによつて本冊子を印刷した、と考へてよいのであるまいか。彼はこれより先慶應三年にも、またこれより後明治三年及び五年にも、恐らくこの活字を用ゐて『英吉利會話』、『西洋蒙求』、『英文伊蘇普物語 乾坤』を印刷してゐるのである(同書、一八八、二五二、二九六頁)。(註)

(註) 明治六年の『稟准和譯英辭書』の印刷者はその序文で、明治二年「西法ノ方法ニ效ツテ鉛字器械ヲ發明シ、この章に至つて本書の印刷に採用したことを言つてゐる。——豊田實『日本英學史の研究』昭和十四年、四二頁。)

『經濟說略』は前述のやうに、語學の恐らく教科書として用ゐられたのであつた。小幡篤次郎先生はこの冊子を

「世の婦人小兒をして聊かこの道(生産の道=經濟學)にこゝろを留めしめるに適當なものとして翻譯された。明治三年五月の『生産道案内』がこれである。その際先生は「本文の缺乏を補ふ」とマンデヴィルの『第四讀本』(The fourth reader: for common schools and academies, By Rev. Henry Mandeville. DD. New York, 1866. (Mandevilles' new course.) から貨幣、外國貿易、國內商業を取扱ふ一課 Lessons xvi. 1—Money. 2—Commerce. 3—exchange. (pp. 39-43.) を譯して序文に加へられた。明治十年の『經濟學入門 一名生産道案内』はその再版である。本冊子はまた明治七年六月西村茂樹によつて改譯、『經濟要旨』の名で文部省から出版された。この譯にも、なにかの少年讀物から取つたらしい水力、風力、及び蒸汽力の三動力源の効用を物語風に作り上げた「三大人」(三巨人の意)と名づける一節を附け加へてある(巻の下、第十三節)。本譯も明治十年に再版が出された。

追記 本稿を草した後、明治二年刊行『英吉利會話』第二版を手にした。本版は標題紙に Second edition. Numazu Watanabe & Co. The second year of Meiji とあるに拘らず、見返しには「江戸渡部氏刷行」とある。本書に使用する活字は『經濟說略』と同じ。すなはち後者の江戸印刷説の確實性を加へるものと言はなければならぬ。また『本の葉文典』にも大小二種あることを知つた。「第四版」(Fourth edition at Yedo. は袖珍版であり、「第五版」(第五版) Fifth edition at Yedo. 1866. Sixth edition at Yedo. 1867. は四六版である。けれども共に『本の葉文典』と稱したらしい(石川幹明編『福澤諭吉傳』第三卷、六二七頁参照)。この三版と『慶應三年江戸再版 改正増補英和對譯袖珍辭書』とは活字が同じい(ともに「開成所刊行」である)。けれども渡邊氏刊行の前三書とは同じでない。だから本文に述べた確實さで開成所活字の使用を主張できないかも知れない。しかし江戸印刷説を覆へずには足りない。

『經濟說略』の非沼津印刷説の傍證として、明治三年の沼津兵學校の佛蘭西語教科書 Livre pour l'instruction. Dans l'école de Numazu Deuxieme édition. 1870. の賣捌が東京、藏田屋清右衛門によつて爲されることが挙げられるかも知れない。

序に明治二年『英吉利會話』再版の標題級と見返しの記載は次の通りである。

標題紙 Conversation of English language; for those who begin to learn the English. By R. van der Pyl.

Second edition. Numazu. Watanabe & Co. The second year of Meiji.

見返し English conversation. ガラタマ先生閱 英吉利會話 江戸渡部氏刷行 梧堂(朱印)

渡部一郎は梧堂とも號したのである。